

保育の心理学

平成 2 9 年度
前期 1 0 問

問 1

次の文は、「保育所保育指針」第2章「子どもの発達」の一部である。（ A ）～（ D ）にあてはまる語句の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

特に大切なのは、人との関わりであり、愛情豊かで思慮深い大人による（ A ）などを通して、大人と子どもの相互の関わりが十分に行われることが重要である。この関係を 起点として、次第に他の子どもとの間でも相互に働きかけ、関わりを深め、人への信頼感 と（ B ）を形成していくのである。これらのことを踏まえ、保育士等は、次に示す子どもの発達の特性や（ C ）を理解 し、発達及び生活の（ D ）に配慮して保育しなければならない。（後略）

【語群】

ア,教育的働きかけ | イ,保護や世話 | ウ,自己の主体性 | エ,発達段階
オ,自己への信頼感 | カ,発達過程 | キ,一貫性 | ク,連続性

（組み合わせ）	A	B	C	D
1	ア	ウ	エ	ク
2	ア	オ	エ	キ
3	ア	オ	カ	ク
4	イ	ウ	カ	キ
5	イ	ウ	カ	ク

保育所保育指針 第2章 「子どもの発達」の一部には次のようにある。

特に大切なのは、人との関わりであり、愛情豊かで思慮深い**大人による保護や世話**などを通して、大人と子どもの相互の関わりが十分に行われることが重要である。この関係を 起点として、次第に他の子どもとの間でも相互に働きかけ、関わりを深め、人への信頼感 と**自己の主体性**を形成していくのである。これらのことを踏まえ、保育士等は、次に示す子どもの発達の特性や**発達過程**を理解 し、発達及び生活の**連続性**に配慮して保育しなければならない。（後略）

問 2 次の記述によって説明される用語として最も適切なものを一つ選びなさい。

出生から死に至る過程において、人が一定の段階をたどり、次世代に生命を受け継いでいくことを意味する。

1. ライフレビュー
2. ライフサイクル
3. 発達課題
4. ライフコース
5. 発達過程

回答

2

解説

ライフサイクルについての記述である。

「出生から死に至る過程」「一定の段階をたどる」「次世代に生命を受け継ぐ」という内容の記述より、ライフサイクルが適切である。

ライフレビュー

直訳すると人生の再検討という意味になります。

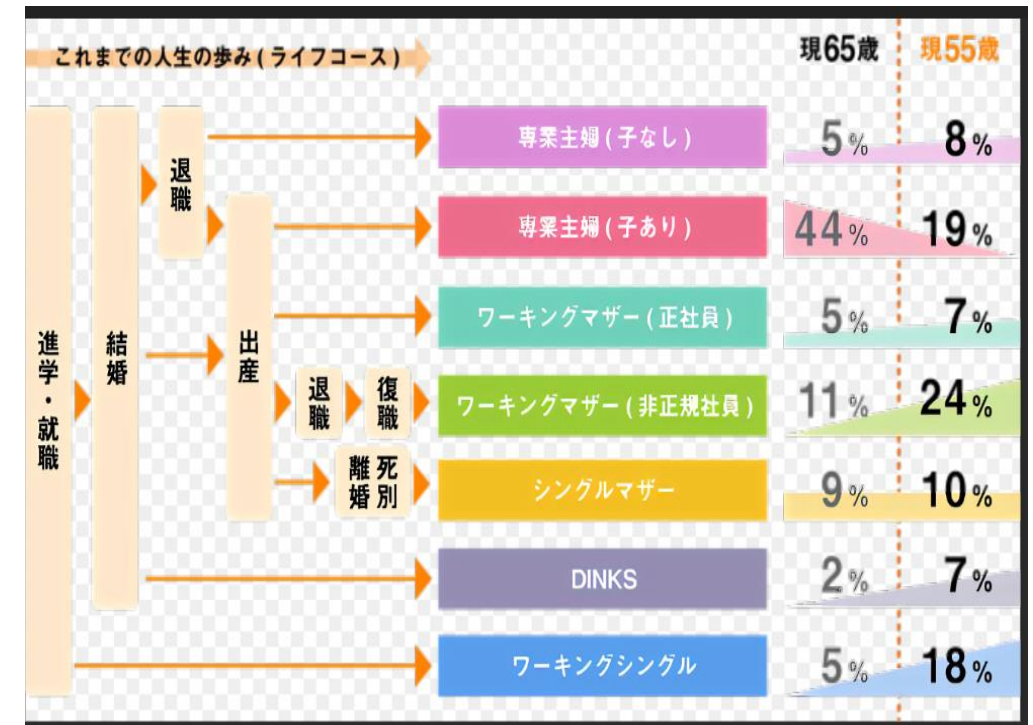
このライフレビューは、特に高齢者に用いられることが多い方法で、今まで生きてきた人生を振り返って再検討することによって、今までの人生を楽しみながら振り返りながらも、これからの人生を楽しむための活力とするために希望を持っていくためにする手法で、自分が今まで生きてきた人生の意味を考えながら、後継者など人生の後輩たちに伝えていくことです。

発達課題

発達を継続するために特定の年齢期間中に人が達成しなければならない
身体的または認知的スキル

ライフコース

個人の一生を家族経歴、職業経歴、居住経歴などの様々な経歴の束として捉えたものである。



発達過程

ある時点で何かが「できる、できない」といったことで発達を見ようとする画一的な捉え方ではなく、それぞれの子どもの育ちゆく過程の全体を大切にしようとする考え方

問 3

次の記述に該当する人物として正しいものを一つ選びなさい。

- 人間の発達では、初めに社会的関係があり、それが内面化すると考えた。
- 他者とのコミュニケーションに用いる言葉を外言とした。
- 子どもの独語は、自分の思考のための言葉になる移行過程であると捉えた。

1. フロン (Wallon, H.)
2. ボウルビィ (Bowlby, J.)
3. ガードナー (Gardner, H.)
4. ロスバート (Rothbart, M.K.)
5. ヴィゴツキー (Vygotsky, L.S.)

ヴィゴツキー (Vygotsky, L.S.)

人間の発達では、初めに社会的関係があり、それが内面化すると考えた。
他者とのコミュニケーションに用いる言葉を外言とした。
子どもの独語は、自分の思考のための言葉になる移行過程であると捉えた。
最近接発達領域という概念を提唱した。

ワロン (Wallon, H.)

フランス・パリ生まれ。精神病院で障害児の治療と研究に従事し、精神障害は生物学的原因だけでなく、環境的原因、特に社会的欠陥も大きく作用していることを明らかにした。
児童精神生物学研究所を創設し、児童相談などの臨床に従事しながら、唯物弁証法の観点から、子供の性格や思考の起源について研究した

ジョン・ボウルビィ

イギリス出身の医学者、精神科医、精神分析家。

専門は精神分析学、児童精神医学。精神医学に動物行動学（エソロジー）的視点を取り入れ、愛着理論をはじめとする早期母子関係理論を提唱した

ガードナー（Gardner, H.）

アメリカの心理学者である。多重知能理論を提示した。

ハワード・ガードナーは「多重知能：人間知能の新たな理解」と「非犯性の発見」そして「熱情と気質」等を作った教育理論の大家で、世界各国で彼の理論に根拠を置く研究所と団体が運営されている

ロズバート（Rothbart, M.K.）

アメリカ合衆国の経済学者、歴史学者、政治哲学者。

オーストリア学派の経済学者であり、アメリカ合衆国のリバタリアニズムの形として「無政府資本主義」と名付けた自由市場無政府主義の理論体系を提唱した事で知られる

著書は20冊を超え、アメリカ合衆国のリバタリアニズム運動の中心的重要人物とみなされている

次の文は、仲間同士の関わりについての記述である。（ A ）～（ C ）にあてはまる用語を【語群】から選択した場合の最も適切な組み合わせを一つ選びなさい

友だちと一緒に遊ぶようになると、子どもは、自分のやりたいことと相手がやりたいことがぶつかり合い、いざこざやトラブルを経験するようになる。子どもは他者との関係のなかで、自分の欲求をぶつけ、実現しようとする（ A ）と、欲求を我慢しようとする（ B ）の両方を求められる。友だちとの関係を築くためには、この両者のバランスを調整する（ C ）が必要になる。

【語群】

ア,攻撃性 | イ,自己主張 | ウ,自己抑制 | エ,抑圧 | オ,欲求不満耐性 | カ,自己制御

（組み合わせ）	A	B	C
1	ア	ウ	オ
2	ア	エ	オ
3	イ	ウ	オ
4	イ	ウ	カ
5	イ	エ	カ

回答

4

解説

自分の欲求をぶつけ、実現しようとすることは、「自己主張」である。

欲求を我慢しようとすることは、「自己抑制」である。

自己主張と自己抑制を調整していくことは、「自己制御」である。

よって、適切な組み合わせは4である。

友だちと一緒に遊ぶようになると、子どもは、自分のやりたいことと相手がやりたいことがぶつかり合い、いざこざやトラブルを経験するようになる。子どもは他者との関係のなかで、自分の欲求をぶつけ、実現しようとする（**自己主張**）と、欲求を我慢しようとする（**自己抑制**）の両方を求められる。

友だちとの関係を築くためには、この両者のバランスを調整する（**自己制御**）が必要になる。

問 5

次の文は、乳児の身体・運動の発達に関する記述である。適切な記述を○、不適切 な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A.乳児の運動機能の発達は、頭部から足部へ、身体の中心部から末梢へ、粗大運動から 微細運動へという方向性と順序がある。
- B.一般的に、平均体重は2,900～3,000g前後、平均身長は49cm前後で生まれるが、 生後 1 年で体重は約 3 倍、身長は約1.5倍になる。
- C.生後8か月頃になると、物と物を打ち合わせる、物を容器に入れる、小さい積木を高 く積みあげるようになる。
- D.手に触れたものを握ろうとする把握反射が新生児にみられ、生後 3 か月になると指さ しが出現する。

(組み合わせ)	A	B	C	D
1	○	○	○	×
2	○	○	×	×
3	○	×	○	×
4	×	○	○	○
5	×	×	×	○

回答

2

解説

A－適切な記述である。記述通りである。

B－適切な記述である。記述通りである。

C－不適切な記述である。生後8か月頃では「小さい積み木を高く積み上げる」ことが出来るとは限らない。1歳半検診の項目として、「積み木を積む」がある。

D－不適切な記述である。生後3か月で指差しは出来ない。個人差はあるが、赤ちゃんが自発的に指差しを始めるのは、生後8～10か月ごろからである。

○

A.乳児の運動機能の発達は、頭部から足部へ、身体の中心部から末梢へ、粗大運動から 微細運動へという方向性と順序がある。

○

B.一般的に、平均体重は2,900～3,000g前後、平均身長は49cm前後で生まれるが、生後1年で体重は約3倍、身長は約1.5倍になる。

×

C.生後8か月頃になると、物と物を打ち合わせる、物を容器に入れる、小さい積木を高く積みあげることができるようになる。

生後8か月頃では「小さい積み木を高く積み上げる」ことが出来るとは限らない。

1歳半検診の項目として、「積み木を積む」がある。

×

D.手に触れたものを握ろうとする把握反射が新生児にみられ、生後3か月になると指さしが出現する。

生後3か月で指差しは出来ない。個人差はあるが、赤ちゃんが自発的に指差しを始めるのは、生後8～10か月ごろからである。

問 6 次の文は、「保育所保育指針」第3章「保育の内容」のイ「人間関係」の一部である。（ A ）～（ D ）にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- ・（ A ）と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。
- ・（ B ）など、自分とは異なる文化を持った人に親しみを持つ。
- ・ 友達の良さに気付き、（ C ）楽しさを味わう。
- ・ 良いことや悪いことがあることに気付き、（ D ）行動する。

【語群】

ア,保育士 | イ,友達 | ウ,外国人 | エ,異年齢の友達

オ,一緒に活動する | カ,協力してやり遂げる | キ,決まり

どおりに | ク,考えながら

（組み合わせ）	A	B	C	D
1	ア	ウ	オ	キ
2	ア	エ	オ	キ
3	ア	エ	カ	ク
4	イ	ウ	オ	ク
5	イ	エ	カ	ク

保育所保育指針 第3章 「保育の内容」 イ 「人間関係」には次のようにある。

- 友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。
- 外国人など、自分とは異なる文化を持った人に親しみを持つ。
- 友達の良さに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。
- 良いことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動する。

問 7

次の文は、学童期の知的発達についての記述である。次の下線部（a）～（d）に 該当する用語を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

ピアジェ（Piaget, J.）は、子どもの知的発達のなかで、（a）数、重さ、体積などの保 存が獲得される時期を示した。例えば、（b）子どもが見ている前で、球状の粘土をソーセー ジ形などに変える実験を行った。この時期には様々な思考活動に可逆性や相補性が加わり、（c）物の分類、順序づけに 必要な操作が発達し、次に、（d）抽象的・論理的な操作が可能となる時期へと向かう。

【語群】

ア,形式的操作期 | イ,具体的操作期 | ウ,密度の保存 | エ,重さの保存
オ,群性体 | カ,同化

（組み合わせ）	a	b	c	d
1	ア	ウ	カ	イ
2	ア	エ	オ	イ
3	ア	エ	カ	イ
4	イ	ウ	カ	ア
5	イ	エ	オ	ア

- ・ 保存の概念が獲得される時期は、「**具体的操作期**」である。
- ・ 子どもが見ている前で、球状の粘土をソーセージ形などに変える実験は、「**重さの保存の実験**」である。
- ・ 物の分類、順序づけに必要な操作は「**群性体**」である。群性体は、ピアジェが唱えた。
- ・ 抽象的、論理的操作が可能となる時期は、「**形式的操作期**」である。

ピアジェ（Piaget, J.）は、子どもの知的発達の中で、（**具体的操作期**）数、重さ、体積などの保存が獲得される時期を示した。例えば、（**重さの保存**）子どもが見ている前で、球状の粘土をソーセージ形などに変える実験を行った。この時期には様々な思考活動に可逆性や相補性が加わり、（**群性体**）物の分類、順序づけに必要な操作が発達し、次に、（**形式的操作期**）抽象的・論理的な操作が可能となる時期へと向かう。

問 8

次の文は、乳児の知覚の実験についての記述である。この実験で用いられている測定法の名称として正しいものを一つ選びなさい。

乳児に、ある視覚刺激を繰り返し提示すると、最初のうちは長く注視するが、回数を重ねるにつれて注視時間が短くなった。そこで別の視覚刺激に変えて提示すると、注視時間が回復し長くなった。このような測定結果の場合、乳児は最初の刺激と次の刺激とを区別していることが明らかになる。

1. 選好注視法
2. 馴化・脱馴化法
3. ソーシャル・リファレンシャル法
4. 視覚走査法
5. ストレンジ・シチュエーション法

回答

2

解説

記述の実験は、「馴化(じゅんか)・脱馴化」についての説明である。

馴化・脱馴化法

馴化とは、ある刺激が繰り返し提示されることによって、その刺激に対する反応が徐々に見られなくなっていく現象である。

脱馴化とは、馴化が生じた後、それと異なる刺激が与えられることによって、新たな刺激に対する反応が起こることである。

選好注視法

乳児に2つ以上の刺激を提示し、注視時間の違いから提示されている複数の刺激を別のものと認識しているかを確認する方法。

例えば、ファンツの選好注視法を用いた実験では、乳児は人の顔のような模様を他の模様よりも注視する時間が長いことを明らかにした。

ソーシャル・リファレンシャル法

日本語になおすと「社会的参照」という言葉が一番近いものになります。

俗にいう「空気を読む力」のことです。

問題解決や行動選択を迫られる場面で、自分だけでは決められないときに、周りの人の表情や態度を見て自身の行動を決定するような行動がとれるかどうかのテストです。

視覚走査法

特定のものを、それ以外の多くのものの中から見つけ出すことができるかどうかのテストです。

お店に並んでいる同系列の商品の中から指定された1つを見つけることができるか、人混みの中で特定の相手を見つけることができるかどうか、といった能力を測ります。

ストレンジ・シチュエーション法

愛着理論を基に、エインズワースらによって開発された乳児と母親のアタッチメントの発達やその類型を明らかにする実験法です。

見知らぬ個室で母親と一緒にいる子どもが、母親が退出し見知らぬ人がやってきたときにどのような行動をとるかで、子どもと母親とのアタッチメントの発達について調べます。

問 9 次の文は、学童期の仲間関係についての記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 仲間は、観察学習のモデルとして相互に影響を及ぼし合う存在である。
- B. 学童期の初めでは特に、学級内での役割分担が仲間形成の要因になりやすい。
- C. 学童期の初めには、閉鎖性の強いギャング・グループが生まれやすい。
- D. 学童期の終わり頃になると、興味・関心や価値観などの内面的な特性による結びつきが強くなる。

(組み合わせ)	A	B	C	D
1	○	○	○	○
2	○	○	×	×
3	○	×	×	○
4	×	○	○	×
5	×	×	○	○

回答

3

解説

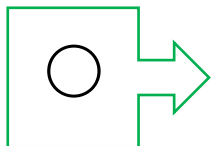
A－適切な記述である。記述通りである。

B－不適切な記述である。学級内での役割分担が仲間形成の要因となるのは学童期中期から後期である。

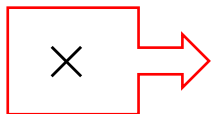
C－不適切な記述である。ギャング・グループは学童期の始めではなく、中期から後期に生まれる。

D－適切な記述である。記述通りである。

よって適切な組み合わせは3である。

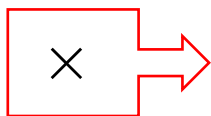


A.仲間は、観察学習のモデルとして相互に影響を及ぼし合う存在である。



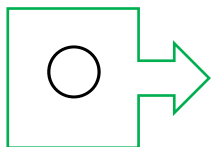
B.学童期の初めでは特に、学級内での役割分担が仲間形成の要因になりやすい。

学級内での役割分担が仲間形成の要因となるのは学童期中期から後期である。



C.学童期の初めには、閉鎖性の強いギャング・グループが生まれやすい。

ギャング・グループは学童期の始めではなく、中期から後期に生まれる。



D.学童期の終わり頃になると、興味・関心や価値観などの内面的な特性による結びつきが強くなる。

問 1 0

次の文は、乳児の生理的反応についての記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A. 大脳皮質が成熟、発達してくると随意運動が原始反射に取って代わるようになる。
- B. 消失すべき時期になっても原始反射が持続する場合、発達の遅れ等が疑われる。
- C. 乳児期初期の泣きや微笑は生理的であっても、養育行動を引き出す特性がある。
- D. 反射に顕著な左右差があるときには、部分的な運動・感覚機能の異常が疑われる。

(組み合わせ)	A	B	C	D
1	○	○	○	○
2	○	○	×	×
3	○	×	×	○
4	×	×	○	○
5	×	×	○	×

回答

1

解説

全て適切な記述である。

- A—大脳皮質が成熟、発達してくると原子反射が消失し、随意運動中心となる。
- B—消失すべき時期になっても原始反射が持続する場合、発達の遅れ等が疑われる。
原子反射消失の時期は多少の個人差はあるが決まっている。
- C—乳児期初期の生理的嘲笑や泣きによって、親の養育行動は引き出される。
- D—反射に顕著な左右差があるときには、部分的な運動・感覚機能の異常が疑われる。